



ASTON MARTIN

2008年6月16日

アストンマーティン2年連続のル・マン制覇



2007年のアストンマーティンGT1クラス初優勝から1年(これは1959年にアストンマーティンがこの偉業を成し遂げて以来の勝利でした。)、David Brabham, Antonio Garcia, Darren Turner の009 DBR9 はサルテサーキットで2度目の優勝を決めました。

象徴的なGulfカラーの009 DBR9は、昨年同様、ロードゴーイングカーをベースとするGT1クラスにおいて勝利をつかみました。

今回のレースは全てのクラスにおいて史上稀に見る大接戦でした。009 DBR9はこの耐久レース序盤の3時間をリードしていましたが、ライバルのコルベットの常連に追われ、断続的な雨とペースカーの登場により、両者は常に接戦になる展開となりました。レース半ばを過ぎた時点で、009 DBR9とそれを追うコルベットには4秒弱の開きがありました。ゴールの際、トータル4500キロのレースで、この2台にはわずかに5分弱の差しかありませんでした。

不安定な状態はこの壮大なレースの終了直前まで続き、ゴール1時間前の日曜日午後3時には雨が激しくなり、全ての決断が重要なものとなりました。タイヤ選択の間違いや、ドライバーによる小さなミスが勝利へのチャンスを奪いかねない状況でした。

実際その24時間を通して、車のみならず009 DBR9の3人のドライバーは非の打ち所がありませんでした。Brabham, Garcia, Turner というメンバーは若手とベテランの完璧な調和を見せ、14キロのサーキットへの挑戦に対しそれぞれの専門的能力を集結させたのです。



スタートとフィニッシュを担当したBrabhamはこう述べました。

“私は15回ル・マンに出場しましたが、今回は経験したことのない大接戦でした。これはまさにこの年の初めの段階から予想しており、そしてもちろんこの接戦が2度目の勝利をさらに満足させるものにしたのだと思います。ゴールはとりわけ緊迫した状態でした。最後の1周まで、我々はどうしたらいい結果が出せるのか本当にわかりませんでした。最後の最後までこれほど力を入れたレースはありません。このレースは皆さんにとって素晴らしいショーだったと思います”

今年のアストンマーティンレーシングの中で新人であり、接戦となった時コルベットの追い上げに苦戦したAntonio Garcia はこうコメントしました。

“我々にとってまさに完璧なイベントでしたが、緊迫した状況もありました。真夜中にコルベットがちょうど真後ろにいるというメッセージを受けた時、はじめは不安でしたが、私たちの車がそれを引き離す速度を持っていることに気づき、それ以降は少し楽になりました。とても速く、非常に運転しやすいこの車は完璧でした”

Darren Turner は2005年にこのプログラムが始まってからアストンマーティンレーシングのドライバーですが、今回、勝利への鍵となった2つの重要な時間のドライビングを担当しました。1つは真夜中の4回目、そして最後から2番目の危険に満ちたウェットとドライ路面の混在するコンディションでのドライビングでした。

“多くの人が2度目のラウンドなので勝利は簡単だろうと言うが、私はそう思いません”と彼は言う。“勝利はいかなるときも難しいけれど、今回のレースは特別なものでした。強力な敵と渡り合い、勝利できたのはチーム全体の力によるものです。コンディションはなかなか容易ではありませんでしたが、素晴らしい車と、最高のチームのおかげで優勝できたことを感謝します”

クラス4位でゴールしたもう一台のワークスカーの007 DBR9は、ドライバーの Heinz-Harald Frentzen, Andrea Piccini, Karl Wendlinger からも、そのすばらしいパフォーマンスに対して賞賛の声が上がりました。007 DBR9 は日曜日の朝5時過ぎに3位を走行中、オルタネーターのトラブルでピットストップを余儀なくされましたが、アストンマーティンレーシングによる卓越したピット作業により僅か15分でピットアウトし、その後はミス無く完走を果たしました。



アストンマーティンのこの充実した週末をさらに盛り上げたのは、DBR9の心臓であるV12エンジンと同じエンジンを搭載したCharouz Racing System LMP1 プロトタイプによる輝かしいパフォーマンスでした。Stefan Mücke による素晴らしい予選での活躍により、総合6位からのル・マンデビューという輝かしいスタートになるはずでしたが、序盤のアクシデントによって30分ピットストップを強いられ、最終的に総合9位という結果になりました。アクシデントさえなかったら上位6位前後のフィニッシュになっていたでしょう。



Team Modena のプライベートーDBR9は、パンクを含むいくつかの障害がありながらも、GT1クラス8位でゴールしました。



アストンマーティンのチェアマンであるDavid Richards はこうコメントしました。

“私にとって、ル・マンは最高のモーターレースであり、2年連続の優勝は象徴的なGulfカラーで一体になったチームの努力の賜物です”

チーフ・エグゼクティブのDr Ulrich Bez はこう付け加えました。

“この3週間に行われた2回の主要な24時間耐久レース、ニュルブルクリンクとル・マンで2回優勝したことを誇りに思います。皆さんにとって驚くべき日となり、いつまでも記憶に残るレースとなることでしょう”